



Effect of Dog Therapy

前回から引き続き、研究の報告します。前号では、導入までの流れを説明しました。今回から、いよいよ結果の報告に入ります。

〈結果〉

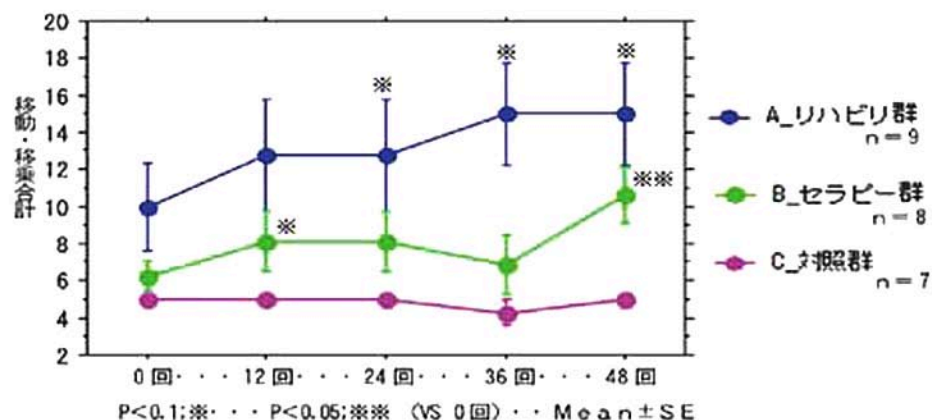
選定基準に適合し、リハビリが必要と考えられる症例30例をエントリーしたが途中脱落6例があり、最終的に評価できたのはリハビリ群：9例、ドッグセラピー群：8例、対照群：7例の合計24例でした。

前号に記載した通り、指標にはパーセル・インデックス(日常生活動作の指標)とバイタリティ・インデックス(意欲の指標)を用い、12回×4回、計48回評価を行い検証・考察し、下記に結果をまとめました。

1. 実施したリハビリの効果

実施した項目である、車椅子からベッドへの移動・歩行の合計の結果は、リハビリ群とセラピー群に改善がみられた。対照群においては改善しなかった。(図1)

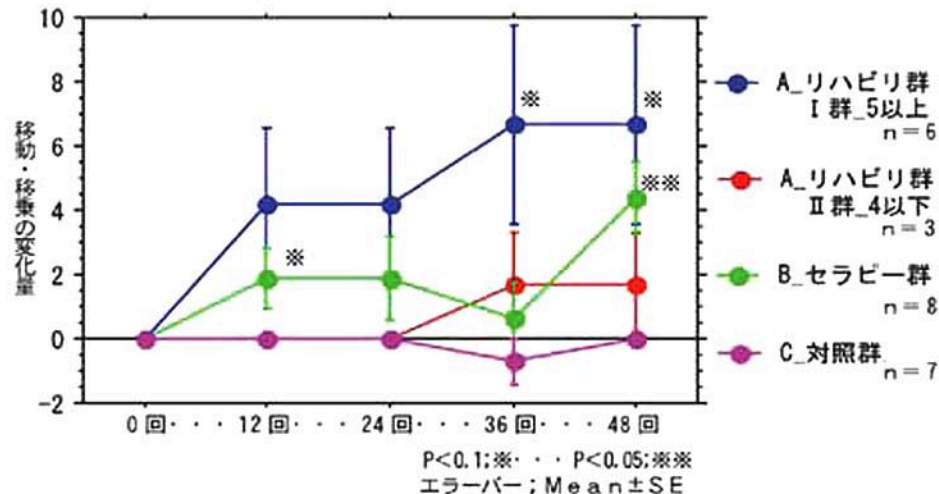
図1 2. 車いすからベッドへの移動・6. 歩行合計の3群比較



しかし、リハビリ群の中で、セラピー群より効果が上回る症例と下回る症例がみられた。検証すると、意思疎通ができ、ある程度意欲のある人(リハビリI群)は、セラピー群より上回り、意思疎通ができて、意欲の低い人(リハビリII群)は、セラピー群より下回る結果となった。(図2)

このことから、言葉を使ってリハビリができない人・言葉を使ってリハビリができていても日常生活意欲が低い人には、ドッグセラピーの導入が有効であると考えられた。

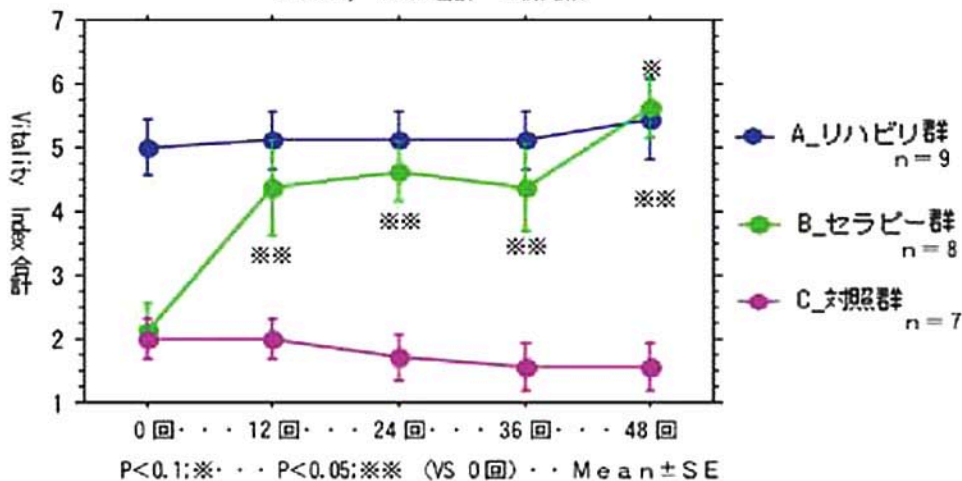
図2 2. 車いすからベッドへの移動・6. 歩行合計の変化量



2. 意欲の指標

リハビリ群と対照群では意欲の向上はみられず、意思疎通の手段として言葉を必要としないドッグセラピー群のみ、意欲の向上を引き出した。(図3)

図3 Vitality Index 合計 3群比較



このことから、認知症高齢者にとって、意欲向上には、言葉ではなく感情・情動が重要ではないかと考えられた。



セラピー犬 ふく



SHIRAKI MARKET

生後3ヶ月の雑種のふくをインターネットの里親探しで見つけて家族に迎えて9年になります。ふくが2才の時TVでドッグセラピーを知り、私も大好きなふくとこの仕事がしたいと強く思いすぐに学校を探してふくと共に訓練を積みました。その後主に集団セラピーを行っていた私は、ジャスティンの本を読んだ時「ここには私が本当にしたいセラピーがある」と衝撃が走り、いってもたってもいられずジャスティンに会いに行きました。生長院長先生、高松アクティブホームのセラピーのみなさんから、すばらしいお話を聞かせていただいたり、体験をさせていただきました。

ふくもジャスティンに似て怖がりですが、一生懸命私のパートナーとして頑張ってくれています。「ふくちゃん待ってたよ、会いたかったよ」と一瞬で笑顔になれる方々に逆にこちらが癒されている気がします。と同時にふくに感謝の気持ちでいっぱいです。

個別セラピーもしたいのですが、ドッグセラピーを受け入れてくれる病院や施設はなかなかないのが現状です。でもあきらめないでドッグセラピーの普及に頑張っていこうと思います。

2年前ふくの後継者にと保護犬だった柴犬を新たに家族に迎え訓練しています。まだまだふくのように、私とあうんの呼吸というわけにはいきませんが一緒に頑張ってます。

斉藤仁美氏 「ハッピードッグ」代表

現在、家庭犬の訓練をしながら、ドッグセラピストとして、大阪を中心に高齢者施設等にてアニマルセラピー活動を行っている。



斉藤さんとふくちゃん



第5回 ドッグセラピー交流会を10月20日(日)13:30～開催します。参加希望の方は、左記に掲載しておりますアドレスまで、メールにてご連絡ください。

トレーニング

「待て」= スティ



まずは、正面でお座りをさせる



そのまま、一歩後ろにさがってみる



動く前に戻り、褒めてご褒美をあげる



徐々に距離を伸ばしていく。

※ 戻る前に動いてしまったら、ご褒美はあげず、すぐにお座りの状態に戻す。そして、距離を少し短くし、仕切りなおす。

※ ドッグが「待っていればいいんだ」とわかってきたら、指示をつける。



今年も夏を満喫



〈お問い合わせ〉

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部

〒701-1333 岡山県岡山市北区立田587番地
TEL.086-905-0111(直通) FAX.086-287-8261
E-mail. dog_therapy@ikenaga-group.jp

<http://www.therapydog.jp>